

## 平成26年度事業報告

### I. 研究発表会, 講演会等の開催

#### 1. 日本心理学会第78回大会

期日：平成26年 9月10日（水）—12日（金）

会場：同志社大学今出川キャンパス

主催校：同志社大学（大会会長：鈴木直人教授）

#### 2. 公開シンポジウム

##### (1) “社会のための心理学” シリーズ

(a) 我が国における性犯罪者の処遇プログラムとその効果（司法現場における心理学）

第1回 7月12日（東京）

(b) 医療の質・安全に役立つ心理学研究を考える（医療現場における心理学）

第1回 7月19日（土）（京都）

第2回 7月26日（土）（東京）

(c) 百寿者と認知症の人の心理

第1回 10月12日（日）（福岡）

第2回 12月13日（土）（東京）

(d) 高齢化社会において心理学はどのような貢献が可能か

第1回 9月11日（木）（京都；第78回大会内）

##### (2) “科学としての心理学” シリーズ

\*2013年度の“心を科学する心理学” シリーズと“基礎心理学の展開” シリーズを含む

(a) 心理学の“神話”をめぐる冒険

第1回 9月20日（土）（宮城）

第2回 12月20日（土）（東京）

(b) 溺れる心：依存症を考える

第1回 10月25日（土）（兵庫）

第2回 2015年1月24日（土）（福岡）

##### (3) 高校生のための心理学講座

全国14か所（北海道，東北，関東Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，中部Ⅰ・Ⅱ，関西Ⅰ・Ⅱ，中国・四国Ⅰ・Ⅱ，九州・沖縄Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

#### 3. 第78回大会時日本心理学会企画シンポジウム等

##### (1) ICP2016関連シンポジウム等

(a) 子どもと類人猿とロボットにおける共感と協調と“心の理論”

(b) 高齢脳の可塑性と認知神経的特徴

##### (2) 機関誌等編集委員会企画講習会

(a) 英語論文投稿への道 (5)

##### (3) 震災復興関連企画

(a) 災害復興支援を考える——2013年度第3回東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究採択グループ報告——

##### (4) 教育研究委員会企画

(a) 心理学と社会をつなぐ

(b) 心理学は市民や社会のために何ができるか——市民のニーズと心理学教育の現状——

##### (5) その他企画

(a) 心理調査（士）の可能性——社会と学問の関係性としての資格——

(b) 心理学知の再体系化から見えてくる心理学教育の未来と心理職国家資格化——科学者—実践者モデルに基づくカリキュラムをデザインする——

(c) 学士課程における心理学教育の質保証に関する参照基準の役割——学術会議の参照基準  
検討部会報告公表を顧みて——

(d) 若手研究者を取り巻く現状と課題——社会とのつながりとキャリア形成のヒント——

## II. 学会誌、研究報告書及びその他の資料の刊行

1. “心理学研究” 第85巻第1号—第6号を刊行した。
2. “Japanese Psychological Research” Vol. 56, No. 2-No. 4 & Vol. 57, No. 1を刊行した。
3. “心理学ワールド” 第65号—第68号を刊行した。
4. “心理学叢書” の刊行  
“なつかしさの心理学——思い出と感情——”（編：楠見 孝），“思いやりはどこから来るの？——利他性の心理と行動——”（編：高木 修・竹村和久），“本当のかしこさとは何か——感情知性（E I）を育む心理学——”（編：箱田裕司・遠藤・利彦）を刊行した。

## III. 研究及び調査の実施

1. 大学の心理学教育に関する調査・研究  
“大学における心理学教育調査”を実施した。
2. 社会が求める心理学教育のあり方に関する調査  
平成27年度継続
3. 心理学卒業・修了者の実態調査  
平成27年度継続

## IV. 国内の学術団体との学術研究協力

1. 日本学術会議  
公開シンポジウム“我が国における性犯罪者の処遇プログラムとその効果”を日本学術会議心理学・教育学委員会法と心理学分科会と，“医療の質・安全に役立つ心理学研究を考える”を社会のための心理学分科会と，“百寿者と認知症の人の心理”及び“高齢化社会において心理学はどのような貢献が可能か”を健康・医療と心理学分科会と共催した。  
日本学術会議主催の公開シンポジウム“学士課程で身につけるべき心理学的素養に向けて”を後援した。  
安全工学シンポジウムに共催した。
2. 日本心理学諸学会連合  
本会から3名，理事として参加している。  
会費および認定心理士承認料を支払った。
3. その他連合体等との研究協力  
日本脳科学関連学会連合に加盟した。

## V. 国際的な学術研究協力

1. 国際心理科学連合  
分担金を支払った。  
また，ICP2016開催に向けて，ICP2016組織委員会との間で連絡協力を行った。
2. 国際テスト委員会  
分担金を支払った。
3. 各国心理学会との研究協力  
英国心理学会 協力協定に基づき，連絡協力を行った。  
スウェーデン心理学会 協力協定に基づき，連絡協力を行った。  
南アフリカ心理学会 協力協定に基づき，連絡協力を行った。

韓国心理学会 協力協定に基づき、10月12日に北京にて第1回“三か国（日本-中国-韓国）心理学シンポジウム”を行った。また、日韓大会で両国の学会員が研究発表を行った。

中国心理学会 協力協定に基づき、10月12日に北京にて第1回“三か国（日本-中国-韓国）心理学シンポジウム”を行った。

台湾心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。

インドネシア心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。

フィリピン心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。

マレーシア心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。

アメリカ心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。

オーストラリア心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。

ロシア心理学会 MOU（協力協定）を結んだ。

インド心理学会 MOU（協力協定）を結んだ。

## VI. 研究の奨励及び研究業績の表彰

### 1. 公益社団法人日本心理学会優秀論文賞の選考・授与

平成25年度刊行の“心理学研究”及び“Japanese Psychological Research”（特集号を除く）掲載の原著論文・研究資料のうちから優秀論文賞選考委員会において授賞論文を決定した。

平成26年度会員集会時に授与式を行った。

#### <優秀論文賞>

(a) 震災後の買い溜め、買い控え行動の消費者の心理プロセスの検討

著者：大友 章司（甲南女子大学）・広瀬 幸雄（関西大学）

掲載：心理学研究第84巻第6号

(b) 日本における国内テロ組織の犯行パターン

著者：大上 渉（福岡大学）

掲載：心理学研究第84巻第3号

(c) Reasoning bias for the recall of one's own beliefs in a Smarties task for adults

著者：前原 由喜夫・梅田 聡（慶応義塾大学）

掲載：Japanese Psychological Research Vol. 55 No. 3

(d) Does high educational level protect against intellectual decline in older adults? : A 10-year longitudinal study

著者：西田 裕紀子・丹下 智香子・富田 真紀子（(独行)国立長寿医療研究センター）・安藤 富士子（愛知淑徳大学）・下方 浩史（名古屋学芸大学）

掲載：Japanese Psychological Research Vol. 55 No. 4

### 2. 公益社団法人日本心理学会国際賞の選考・授与

国際賞選考委員会にて、国際賞授賞者を選考した。平成26年度会員集会時に授与式を行った。

#### <特別賞>

松沢 哲郎（京都大学霊長類研究所）

#### <功労賞>

大野 圃（York University）

#### <奨励賞>

足立 幾磨（京都大学霊長類研究所）

出馬 圭世（玉川大学脳科学研究所）

森口 佑介（上越教育大学）

### 3. 公益社団法人日本心理学会学術大会優秀発表賞の選考・授与

第78回大会前日の会員集会において、第77回大会時の特別優秀発表賞授与式を行った。

第78回大会において、全ポスター発表を対象に、大会参加者全員を審査者として、学術大会優

秀発表賞の投票を行い、9件に特別優秀発表賞、17件に優秀発表賞を授賞することを決定した。平成27年度会員集会で授賞式を行う。

4. 公益社団法人日本心理学会心理学ミュージアム作品賞の選考・授与  
心理学ミュージアム展示室に掲載する作品を公募し、応募作品から優秀作品賞授賞作品を選考した。平成26年度会員集会時に授与式を行った。

<最優秀作品賞>

「おふくろの味」がおいしい理由——意図の知覚が体験を変える——

著者：石井 辰典（東京成徳大学）

<優秀作品賞>

色がなくても色を感じる——共感覚——

著者：濱田 大佐（京都大学）

5. 研究集会等への支援  
24件の研究会へ助成を行った。
6. 国際会議参加者への旅費補助  
26名の国際会議参加者への旅費補助を行った。

## VII. 認定心理士の資格認定及び研修

1. 公益社団法人日本心理学会認定心理士資格の審査と授与  
平成27年3月31日現在、総件数3 290件を審査し、3 090名を合格、57名を不合格、143名を保留とした。  
必要な手続を経て資格を取得した者は3 002名であった。
2. 公益社団法人日本心理学会認定心理士研修会  
平成24年度より、I-2. 公開シンポジウム・公開講演会等と連動して多くの領域をカバーする研修とすることとした。
3. 教科書の刊行  
認定心理士教科書“認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎”の制作を行い、印刷中（平成27年6月刊行予定）。
4. 認定手続変更に伴う手引きの改訂  
認定心理士関係諸規則の改正に伴い、手引きを改訂した。
5. 認定心理士データベースの構築  
認定心理士資格審査のためのデータベースの構築を進めた。

## VIII. その他目的を達成するために必要な事業

1. 心理学の普及・啓発のための広報活動  
“心理学ミュージアム”に作品を掲載した。
2. 心理学の歴史的資料の保存・調査  
古典的機器の調査・撮影を行った。  
名誉会員へのオーラル・ヒストリー聞き取りを行った。
3. 倫理規程の継続的な検討・倫理問題の解決  
倫理委員会において、所管事項を審議した。
4. 東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究の助成  
第4回“東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究”を公募し、4件に助成を行った。
5. 選挙の実施  
(1) 選挙台帳作成  
会員名簿2014を刊行した。

(2) 代議員・役員選挙の実施

代議員・役員選挙を実施した。

6. 第31回国際心理学会議（ICP2016）組織委員会

ICP2016開催に向けて、所管事項を審議した。

7. その他

(1) 心理調査士の新設

心理調査士の検討を行った。

(2) 学会90周年，認定25周年の計画

日本心理学会90周年記念事業，及び認定心理士25周年記念事業として，本年度の公開シンポジウムを行った。

認定心理士25周年記念事業として，認定心理士アンケートを行った。

その他，記念事業の検討を行った。

(3) 下部組織の体系化

学会の組織について検討を行った。

(4) 表彰制度の検討

学会の表彰制度について検討を行った。

以上